

WCS用稲「たちすずか」の微細断収穫調製・給与体系の開発実証 現地検討会

広島県立総合技術研究所畜産技術センター飼養技術研究部 研究員 末永晋一氏

〈はじめに〉

WCS（ホールクroppサイレージ）用稲「たちすずか」の栽培や利用技術の定着のため、「中国四国地域マッチングフォーラム」が10/19(木曜日)に広島市で、「技術実演会」が10/20(金曜日)に当センターで開催されました。今回はこの2日間の様子を紹介します。

なお、このイベントは農林水産省大臣官房政策課技術政策室と農研機構西日本農業研究センターが主催し、広島県は後援と協賛で協力しました。

〈マッチングフォーラム〉

基調講演の「WCS用イネの現状と新たな展開」に続いて、「高糖分・高消化性WCS用イネ品種」、「微細断収穫・高密度輸送・調製によるコストダウン」、「高糖分WCS用イネに適した新しい乳酸菌」、「微細断イネWCSの特徴と家畜への給与」といった講演が行われました。

当センターからは、河野幸雄副部長が「微細断イネWCSの特徴と家畜への給与」について発表しました。内容は、農家で行った給与実証試験の報告で、微細断イネWCS（飼料中16.6%）を乳牛に給与した結果、泌乳成績や繁殖成績が良好であったことから、微細断イネWCSの給与体系は非常に優れた技術であることを紹介しました。

その後、ポスター発表やパネルディスカッションが行われ、大変有意義なフォーラムとなりました。

〈技術実演会〉

最初に、WCS用稲の品種に関する情報が紹介されました。「たちすずか」をはじめ、新品種の「つきすずか」や、現在開発が進められている新品種も紹介され、大変興味深いものでした。「つきすずか」は、縞葉枯病に抵抗性があり、初期生育が良く、「たちすずか」と同様の飼料特質を持つ9月上旬に出穂する品種です。

来場者の方々が最も関心を示されたのが、ワゴンタイプの汎用型微細断収穫機による収穫実演でした。前日までの雨により、圃場はかなり泥濘化していましたが、全く問題なく収穫作業が進みました。（写真①、②）

その後、細断型ロールベアラとコンビラップによる高密度ロールベール調製の実演や、「たちすずか」など

の高糖分WCS用稲に適した新しい乳酸菌の説明、バンカーサイロの見学等がありました。（写真③）

後日、主催の農研機構西日本農業研究センターに確認したところ、来場者アンケート調査の結果から非常に満足度の高い2日間だったことが分かりました。



① 泥濘化した圃場の様子



② 微細断収穫機



③ コンビラップによる高密度ロールベール調製